どんぐりの森通信　第18号　2009. 12. 1.

いつのまにか今年もカレンダーの最終ページを残すのみとなりました。いつ雪が降っても良いように、森の中、水の中、土の中の生きものたちも冬支度に余念がありません。平岡公園ではツグミやミヤマカケス、シメなど冬の主役の鳥達の姿が目立つようになりました。今年の冬は、ナナカマドの並木に群がるキレンジャク、ヒレンジャクの大群に出会えるでしょうか。

「平岡どんぐりの森」は、身近な地域の自然に親しむ活動をしているグループです。平岡公園や東部緑地をフィールドに、子供たちと一緒に自然の中で遊ぶ「ながぐつの土曜日」や、定期的な自然観察会を行っています。

『どんぐりの森通信』第 18 号は、2009 年夏～秋の活動報告です。この1年、平岡どんぐりの森の活動にご参加、ご協力いただいた方々、どうもありがとうございました。 来年もどうぞよろしくお願いいたします！

❖❖❖　7月～11月の活動報告　❖❖❖

ながぐつの土曜日

毎月第 2 土曜日は、小学生の親子を中心にした自然観察会「ながぐつの土曜日」を平岡公園で開催しています。平岡公園は都市公園とはいえ、森あり、湿地あり、小川ありと変化に富んだ自然環境が残っている楽しいフィールドです。毎月、大勢の子供たちとお父さんお母さん、ボランティアの学生さんが集まって、草や木、昆虫や鳥、魚など「これ、何？」「どうしてこうなるの？」と、にぎやかに園内を探検しています。

7月11日（土）お魚たんけんたい

一般参加者 67 名、スタッフ 11 名という大部隊で出発。上流の湿地木道を歩いてから、園内の小川で水中の生きものを探しました。ちょうどオニヤンマの羽化の時期で、湿地ではキタヨシの茎や葉の裏で羽を広げ始めたオニヤンマをいくつも見つけて、子供たちの(大人も)歓声が上がりました。ゆうゆうと流れに沿って巡回する、立派なオニヤンマもいました。川ではタモ網を手にした親子連れの参加者が流れに入り、フクドジョウやマドジョウ、スナヤツメなどの魚やトンボのヤゴを見つけて、楽しみました。

10月10日（土）秋の森たんけんたい

黄色、オレンジ色、赤、明るいモミジに包まれた森を歩きました。大小さまざまな形の落ち葉を集めて比べてみます。「ホウノキの葉は大きいねー」「僕のが一番！」とにぎやかです。黄色の色紙に一番よく似た色の葉っぱはどれ？とゲームも楽しみました。草むらからニホンカナヘビの親子が走り出て来て、びっくり。透明ケースに入れて観察、恐る恐るのぞきこんだ子も、カナヘビのつぶらな瞳に「可愛い！」と声をあげていました。観察後、もとの草むらにそっと返しました。雨の多い秋だったからでしょうか、あちこちで大きなキノコがにょきにょき育っている平岡公園でした。

平岡公園ツリーウオッチング

平岡公園をフィールドに、樹木の四季を観察する「ツリーウオッチング」。自然観察協議会指導員の佐藤さん（ゆうさん）を案内人に、毎月第３水曜日の午前中に開催しています。

9 月 16 日(水)　色づく木の葉、目を引く木の実

赤い実はツリバナ、マユミ、ミヤマガマズミ、オオカメノキなど数ある中で、握りこぶしにも似たコブシの実はひときわ目を引きます。高い梢の先端には大きなホウの実も。青い実はサワフタギ、緑色はコクワ、たわわに実ったヤマブドウも美味しそうです。紅葉の始まった森の中、木の実を探して歩くだけであっという間の 2 時間でした。

❖❖❖ 7月～11月の活動報告（その2） ❖❖❖

第10回平岡公園にぎわいフェスタ　8月8日（土）　参加者53名（スタッフ20名）

台風や大雨で 2 年ほどフェスタが中止となり、「今年こそ」と祈るような気持ちで迎えたこの日は青空が広がり、最高の川遊び日となりました。集まったや子どもたちや家族連れと一緒に、森をたんけん。林床には早くもキノコが顔を出し、木道やはらっぱにはカワトンボやオニヤンマがたくさん飛んでいました。

小川ではタモ網を使って、魚や水生昆虫を捕まえました。フクドジョウやスナヤツメ、トミヨ類などの魚やトンボのヤゴ、小さなヨコエビもたくさん見つけました。いつものように、捕まえたものをじっくり観察して、元の場所へ返しに行きました。エゾホトケドジョウ、スナヤツメやゲンゴロウなど平岡公園の水辺には貴重種がまだ数多く見られます。普段は川で魚を捕ったりすることはできませんが、公園管理事務所と平岡どんぐりの森が共催で行う観察会「ながぐつの土ようび」や「にぎわいフェスタ」ではみなさんに実際に自然の生きものに触れてもらうために、平岡公園の了解を得て特別に川へ入ることができます。今回も酪農大学の学生さんや、魚や虫に詳しいボランティアの皆様方のご協力を頂きました。ありがとうございました。

清田緑地観察会（小学校総合学習）

5 月、6 月、9 月の 3 回にわたり、清田小学校の 3 年生が四季を通して清田緑地の自然を学ぶ野外学習の自然案内人として参加協力しました。1 時間くらいで一回りできるこの緑地は植物や木々の種類も多く、木道から貴重な花や樹木を見ることができます。春に咲いていた花が秋には実をつけ、木々にはたくさんのタネがぶら下がるのを見ることができました。オオウバユリやエンレイソウでは、花から実への変化を追ってみることができました。ドングリやヤチダモは、花は目立たなかったけれど、いつの間にかたくさんの実ができているのにびっくり。プロペラがついているカエデやモミジのタネなど今年は豊作のようでした。自分のテーマを決めて、それについてじっくり観察したり調べたり、野外学習は毎回新しい発見があり、子供たちの興味はひろがります。

お楽しみ観察会

<u>7 月 22 日（水）　野幌森林公園散策と皆既日食</u>　　参加者 10 名

開拓の村から森に入り散策スタート。大きなキノコがあちこちに顔を出し、エゾユズリハ、ハイイヌガヤは緑色の実がたくさんなっています。遊歩道脇ではオオウバユリ、エゾアジサイが満開で、マムシグサ、エゾスズランもところどころで見られました。、イワガラミの白い花が薄暗い森を明るくし、アサダのタネがぶら下がっているのが目につきました。ちょうどこの日は皆既日食当日！雲のすき間から欠けた太陽が見えました。前日の雨で所々に水たまりができ、そこになんと！欠けた太陽がくっきりと映っていました。こんなふうに皆既日食現象を体感できるなんて！心に残る貴重な一時でした。感動を分かち合いながら瑞穂の池まで約 4kmの自然を満喫しました。

９月９日(水)　　ロ無沼散策　　参加者７名

樽前山の裾野にあるロ無沼を訪れました。周囲の森には数年前の大型台風の爪痕が残っている場所もありますが、沼を一周する遊歩道は歩きやすく整備されています。静かな水面にはトンボがたくさん飛び交い、小さなアマガエルやエゾアカガエルがあちこちで見られました。お目当てのアケボノソウは水際に可憐に咲き、エゾリンドウやヤナギタンポポなど秋の花も咲きはじめています。景色を楽しみながら、ロ無沼の周りを散策しました。

湖岸の枯れ木に思いがけずヤマセミを発見して、みんな興奮気味。鋭い鳴き声と共に水面を滑るように飛ぶ姿も見せてくれました。初めて見る憧れの鳥！という人も多く、大変ラッキーな１日となりました。

アケボノソウ

モニタリングサイト１000　里地調査

『モニタリングサイト 1000 里地調査』は環境省のプロジェクトで、全国の多数の場所（1000 ヵ所位）で総合的な環境調査を行い、日本の自然環境の変化を全国レベルでとらえることを目指します。生態系の変化を全国的･長期的にモニタリングすることによって、外来種の侵入や希少種の減少といった異変をいち早く捉えて、調査地の保全に役立てることを目的としています。（日本自然保護協会HPより）

平岡どんぐりの森はこのプロジェクトの一環として、カエル類（平岡公園）と鳥類（東部緑地）の調査に参加します。1 サイクルが 5 年という長期的な計画ですが、この調査を機会に地域の自然を見守っていきたいと思います。

（財）日本自然保護協会が調査の事務局になっていますので、詳しくはHPをご覧ください。

URL：http://www.nacsj.or.jp/moni1000satochi/

2009 年　鳥類調査（越冬期）1/9　1/21　2/10

（繁殖期）6/3　6/17　6/28　7/5

東部緑地パークゴルフ場付近から大曲橋方向に遊歩道約 1km を一定の速度で歩きながら、両サイド30m以内に視認できた野鳥の種類や数を記録します。

越冬期は積雪が多くて歩くのに時間がかかりましたが、冬景色を楽しみながら野鳥の声を頼りに双眼鏡を使って姿を探しました。カラ類やアカゲラなどおなじみの鳥たちに加えて、マヒワやベニヒワの群れをすぐ近くで見ることができました。枝から枝へ渡るエゾリスがいたり、クマゲラの新しい採餌痕を見つけたりと嬉しい発見もありました。

繁殖期は木々の葉が茂り野鳥の姿を確認するのは難しいですが、オオルリやキビタキの歌声を聞きながら初夏の森を歩きました。調査時間は日の出頃～8 時頃と決められており、1 回目は 6 時に調査開始しましたがほとんど鳥を確認できず、7 時過ぎになってようやく野鳥の声が賑やかになりました。東部緑地の鳥は朝寝坊！ということが解り、その次からは時間を遅らせて調査を行ないました。

身近な自然にいる野鳥の種類を確認してデータを把握したいと思います。

2009年　エゾアカガエル調査　（産卵期間）3/25　4/11　4/29　5/9　平岡公園湿地エリア

エゾアカガエルは、年 1 回の産卵期には産卵可能なサイズの全てのメスが 1 匹あたり 1 つの卵塊を産卵します。卵塊の数を数えることで、その地域に生息するカエルの個体数を把握できます。今年は公園内で産卵が多い 4 ヶ所を調査地点として、卵塊の数を数えました。合計 147 個。外来種トノサマガエルの繁殖が広がる人口湿地エリアは特に、今後の変化に注目しながら調査を続けたいと思います

北海道のトノサマガエル

北海道大学大学院　環境科学院　生物圏科学専攻
動物生態学コース　高井　孝太郎（写真　臼井　平）

私は平岡公園で 5 年ほど前から園内に生息しているトノサマガエルの生態について研究させていただいております。

平岡公園の人口湿地内にて我が物顔で鳴いているトノサマガエルは第 15 号で吉田剛司先生が紹介していたように、北海道では本来生息していないカエルです。トノサマガエルは90年代の初めあたりに道内への侵入が報告され、97 年の分布調査では北広島の一部水田だけでしか見られませんでした。しかしながら、以降その分布を広げ、現在では（私の知る限りですが）北広島市だけではなく、恵庭市、江別市、南幌町一帯に生息しています。また、札幌市内では平岡公園のほかに北海道大学実験農場でもトノサマガエルの生息が確認できます。トノサマガエルが個体数を増やすとニホンアマガエルの個体数が減っていることから、北海道に生息するアマガエルたちにとっての厄介者であると考えられます。

北海道では厄介者であるトノサマガエルですが、その一方で本来の生息地である本州や四国、九州では数を減らしており、国際自然保護連合では準絶滅危惧種に指定されています。以前、学会で道内におけるトノサマガエルの分布拡大について発表したときに、「全国でトノサマガエルが増えているのは北海道だけだろう」と本州の研究者に言われたことがあります。本来の生息域では保全が必要な種なのです。

現在、平岡公園に生息するトノサマガエルの基礎的な生態調査を酪農学園大学の学生さんたちと行っております。これまでに園内での繁殖場所や繁殖に参加する年齢、産卵数、食性など、多くのことが判ってきました。ここから得られたデータから、北海道に生息するトノサマガエルの防除を考えるだけではなく、本来の生息域で個体数を減らしているトノサマガエルの保全に役立てることが出来ればと思いながら研究を続けています。

冬の平岡公園　スノーシューで歩いてみよう！　　**管理事務所前集合**

1 月 16日（土）	冬の平岡公園にぎわいフェスタ	1:30～
2 月　3 日（水）	ツリーウオッチング　スノーシューで冬の森散歩	10:00～
2 月 13 日（土）	ながぐつの土曜日　雪の森たんけんたい	10:00～

スノーシュー、カンジキは用意します。申し込み不要。　詳細はホームページで。

発行　**平岡どんぐりの森**　（代表　荒井美和子）

〒004-0033　札幌市厚別区上野幌 3 条 5 丁目12－8
tel. fax　011－896－0058

ホームページ　http://dongurinomori.web.fc2.com/

平岡どんぐりの森の活動は、平成21年度　**前田一歩園財団自然環境保全活動助成**を受けています。